

京極町地域価値創出グランドデザイン策定業務

地域未来交付金に関する参考資料

1 この資料の位置付け

本資料は、京極町地域価値創出グランドデザイン策定業務の企画提案に当たり、地域未来交付金の活用を見据えた前提条件、KPI の考え方、対象施設整備の想定及び今後の協議事項を整理し、提案者間の前提条件をそろえることを目的とする。

本資料は、現時点における町の考え方を示すものであり、交付金採択、関係機関協議、詳細な事業化検討その他の状況に応じて、今後内容を見直す場合がある。

2 業務実施に当たっての基本的な考え方

本業務は、内閣府所管の地域未来交付金の活用を見据え、ふきだし湧水及び周辺地域資源を核として、将来的な拠点整備（ハード）と事業創出（ソフト）を一体的に構想し、事業化に向けた実効性の高いグランドデザインを策定することを目的とする。

提案に当たっては、単なる施設整備計画ではなく、「訪れる人→関わる人→働く人→住む人」へと段階的につながる地域循環モデルの構築を重視すること。

3 提案に当たり前提とする事項

区分	内容
交付金活用の前提	本業務は地域未来交付金の活用を見据えて実施するものであること。なお、採択を確約するものではないこと。
対象施設	今後改修等を想定する道の駅その他関連施設・周辺空間を検討対象に含むこと。
概算事業費	町が想定する概算事業費は今後精査するものであり、提案時点では目安額又はレンジを前提として考えること。
実装時期	交付金の活用を見据え、概ね3か年での段階的な制度設計・整備・実装を想定すること。
基本構想との関係	ふきだし再開発整備基本構想を踏まえつつ、必要に応じて再整理・再構成を行う余地があること。

4 KPI の取扱い

KPI は、交付金制度上、客観的かつ定量的であり、事業との直接性があり、妥当な水準の目標として設定することが求められる。このため、提案に当たっては、以下のような対象分野を念頭に、KPI の設定方針、検証方法及び見直しの考え方を示すこと。

対象分野	例示
来訪・滞在	来訪者数、滞在時間、再訪率等
観光消費・地域経済	一人当たり観光消費額、域内調達率、地域産品販売額等
事業創出・雇用	出店事業者数、新規雇用者数、体験プログラム件数等
関係人口・移住定住	ワーケーション利用者数、関係人口数、移住相談件数、移住者数等
運営・継続性	運営体制の構築状況、官民連携の進捗、収益性の改善状況等

なお、KPI の最終的な項目及び目標値については、本業務における調査・分析、関係者協議及び交付金手続との整合を踏まえて精査するものとし、公募時点において確定値を固定するものではない。このため、公募段階では、KPI の候補分野、設定方針、検証方法及び見直しの考え方について提案を求めるものとする。

5 今後の変更申請等に関する考え方

対象施設の整備内容、事業費、KPI その他の条件は、交付金協議、関係機関協議、詳細な検討の進捗等に応じて見直し又は変更申請の対象となる場合がある。

ただし、提案段階では、変更可能性を前提としつつも、現時点で想定し得る前提条件の下で、実行可能性、段階性及び柔軟性を備えた提案とすること。

6 提案に当たり特に求める視点

項目	提案に求める内容
制度理解	地域未来交付金の活用を見据えた制度設計、実装準備及びPDCA の考え方を示すこと。
施設整備の考え方	道の駅等の施設整備を目的化せず、地域価値の循環につながる機能・配置・運営の考え方を示すこと。
KPI 設計	KPI 項目案、設定ロジック、達成に向けた施策及び検証方法を示すこと。
事業化・運営	官民連携、運営主体候補、収益構造、継続性確保の考え方を示すこと。
柔軟な変更対応	今後の変更申請や条件変更にも対応し得る工程・検討手順を示すこと。